

衆公方様へ御禮申上候時は唐物などを進上候、各次に御太刀を進上仕候事無之儀也。

〔道照愚草〕進上之披露狀に、謹上書進上書にも調事勿論なり、進上を除事も常の儀なり、二三月に進上候も、正月の日付可然候なり、但又所事にもよるべし、八朔の日附も同前。

〔年中恒例記〕年中御對面并雜事少々

正月一日 一公家、大名、外様、御供衆、御部屋衆、申次衆、番頭、節朔衆、走衆也、今日計也。一御太刀金

三職五箇日進上之、一御弓、御笠懸、引目、細川、淡路守進上之、一御太刀金、二千疋之折紙、日野殿

進上之、是は御參より申入なり。略一三職進上之御太刀、十五日迄は御對面所におかれ、其後

八幡へ參、四日略一御扇三本、藝阿進上之。略一御硯きり并御筆ゆひ兩人、福壽、祐永御

硯筆進上之、御太刀被下之。略一伊因記錄云、今日四日藝阿進上之御扇、披露以後そのま、御

前に置申時も在之、但懸御目て則かげへ取て、御對面すぎて女中向を以て進上可然云々、五日

略一美物五種、吉良殿進上之、因幡守説に云、此美物以女中被申入之云々、七日略一此

藥外郎進上、十日略一白鳥一ツ判門田進上之、關東上杉雜掌、此儀御末より申入也、十一

日略一白鳥一ツ、初鮒二十、京極進上之、一初鮒、六角進上之。略一薯蕷、莖立、例年水主備

後守進上之、十二日略一久喜二桶、梅づけ、梅むき、宇治大路進上之。

〔御内書案〕爲年始之禮、太刀一腰到來、祝喜候也。

二月十八日同貞陸御調進

畠山左衛門佐殿へ

爲年始之祝儀、太刀一腰、馬一疋、黑毛到來、悦喜候狀如件。

永正十六年三月廿三日

北島中將殿